



善正寺だより

揭示板法話

念仏者の人生は 去りてなお

温かき余韻を残して下さる

十方の鐘をつきにくる子供たちが、鳴り響く梵鐘に手を当てる。「パワーもらった、パワーもらった」といって梵鐘の響きを楽しんでいます。

梵鐘の響きを「余韻」と言いますが、私は最近、秘かに「平成の妙好人」とお慕いする方の仏前にお参りして、この夏

八十八歳で往生を遂げられた念仏者の余韻を深く感じる事ができました。妙好人とは、苦悩の人生の中にお念仏の智慧の花を咲かせて、お浄土に往かれた人であり、仏様から「泥沼の中に咲く蓮の花のように尊いことよ」とほめられたえられる人のことです。

その方は若き頃疎開先の島根県で島根大学教授・川上清吉先生を通して親鸞聖人の教えに遇われ、以後仕事の傍らひたすら各地のお寺で聴聞に励まれました。退職後には私どものお寺にも十年以上欠かさず、遠路、JR、近鉄を乗り継いでお参り下さいました。舌癌手術により言語不自由で、頸椎損傷により歩行が不自由な身になり、「ご自身の看病に尽くされた奥さまに先立たれながらも静かにその苦難を受け止めら

れ、お念仏を喜ばれました。そのお心が「ひかりはつねに」という詩に躍動しています。姿見えねどみ仏は 是るか久遠のあなたより 不滅の光きわもなく 惑える我を照らします 声聞こえねどみ仏は 永き思惟(しゆい)の時経てぞ 難思の弘誓(ちかい)とこしえに み声は我を喚びたもう 惑える心変わらねど 我は光のうち にあり まことのみ法明らけく 抱かれ 往かん無碍の道 という念仏讃歌であります。 昨年息子さん在不慮の事故で亡くされたときにも若いお嫁さんやお孫さんの頼もしい支えでした。「仏説無量寿経」の中から、「智慧の眼」という意味の「釈慧眼」という法名を「本山に内願して拝受されました。自ら用意された遺影の写真を拝見しつつ、「この法名の通り、智慧の眼に照らされて苦難の人生をよく彼岸に渡って往かれましたね」と若い奥様に申し上げると、「ええ、私の子供たちにも仏様の心を伝えてもらったような気がします」と言われました。



〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
TEL:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

11月門信徒会例会

11月21日(日)午後7時半

- ①「宗祖讃仰作法」(第1種)の解説とお勤め練習
- ②「宗祖讃仰作法」に所収の和讃の味わい
- ③来年の諸行事(団体参拝等)について

♪三重組コーラス♪

☆10/30(土)夜7時半小杉、善正寺での最後の練習！
来年度より三重組主導の新体制に、新しく生まれ変わります

11/3午後光了寺、11/15夜西勝寺(報)、11/22(月)京都西本願寺御堂演奏会連続8回目参加予定6千円、バス8時半小杉、9時桜発、衣装はコーラス服装、11/30(火)12時30分本年度三重組コーラス打ち上げ食事会、寿美家で、三千元

◇キッズサンガ

※11/6(土)午後4時、お友達を誘って来てね
※毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK 飴ガム付。年中無休

☆11/6(土)夜7時半 世話方会議

☆11/23(火・祝)8時より「秋勤進」留守の方はご連絡を！

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評 長男もブログに参加、3万1千回アクセス達成！毎日40~50訪問に感謝！HPからのメール、悩み相談など歓迎！拍手欄より一言メッセージをどうぞ、私達の大きな励みになります。

住職と坊守の2冊目共著本「虫の眼鳥の眼仏の眼」(千円)

相次ぐ別離に遭われた中にも温かい雰囲気を感じさせるお仏間に、尊い念仏者の余韻を自然のままに感じさせていたことでした。 姿は見えなくなっても、見送る人の胸の中に温かい余韻を残して往かれた念仏の行者、その方は齊藤亥十二様。この人を「平成の妙好人」と敬いつつ、仏縁を共にすることのできたお出合いを喜ばずにおれません。 梵鐘の響きに触れてパワー(力)をもらったとはしゃぐ子供たちとは比べようもない、しなやかで力強い仏様の智慧の光に照らされた念仏者の生き方に学びたいと思います。



東北地方に住む女性から送られた浦島太郎の絵(下)と、子供達への感謝の言葉が添えられた葉書を持つ鐘撞き少年隊(上写真)。東北と三重が繋ぐ鐘の音。東北にも届くように、僕達は毎夕5時に心を込めて撞きます。(詳しくは裏面投稿欄参照)



海島太郎

坊守スケッチ

期間限定の楽しみ



子育て真っ最中の若いお母さんが、次のように投書していた。

「子供3人と一緒に入浴中のこと。まだ幼い子供達は、母親を独占しようと、狭い湯船でギュウギュウ詰めになりながらはしゃいでいる。そのため私はゆっくり入浴することは出来ない。しかし思い返せば、こんな状態も後僅か数年も経てばお母さんと一緒に入るのは嫌と、子供達の方から逃げていく狭いながらも、わが児に囲まれながら入浴できるのは、期間限定の特典かも知れない」という内容だった。

私も良く似た経験をしたことがある。山の上の保育園へ子供を送って行く時、車を使わずに出来るだけ手を繋いで歩いて行った。特に息子の場合、手をつなげるのは、その時しかないと思った。「なんだ坂、こんな坂!」と歩きながら声を掛け合い、一緒に歌を歌った。雪の日には滑らないように、ゆっくりした足取りで坂を上り、山の上から見た四日市の雪景色を、今も忘れることはできない。道端に咲く草花を摘み、公園の鉄棒で遊び、寄り道をする楽しみがあった。車で行けば時間短縮で楽になるが、歩いたことでその時だけしか味わえない、母と子の思い出が詰まった『期間限定の楽しみ』を堪能した。

政府が推奨するエコポイントと言うのも、期間限定の楽しみの一つである。皆さんもこれに惹かれて、車を買った換えたり、クーラーや冷蔵庫、テレビを買った換えた人が多いのではないかと?数カ月後には商品券や現金として戻ってくるらしいが、まだ手にしていないので、その実感は湧かない。こうしてお金や数字で表されると、それに乗せられてその気になってしまいが、目の前にエサがないと、その気になれない人間の浅はかさに気付く。現在恵まれていることに気付かず、与えられた環境に感謝できない人が案外多い。もしそれが受け取られるようなれば、随分人生の見方も変わってくるだろう。不平、不満、愚痴しか言えない自分の口から、「ありがとう」「おかげさまで」という感謝の言葉が、次々に自然とついて出るだろう。

言っている間に日が暮れる。人生はいつ終わりを告げるとも分からない制限付空間。その特典を後回しにして、あくせく働くばかりで、空しく人生を終えていいのだろうか?
今しか出来ない『期間限定の楽しみ』を見落とさないようにしたい。

☆寄稿

四日市市川崎孝一
☆曇天も ご機嫌顔の 望月を
雲間に仰ぐ 夜半に目覚めて

☆黒糖が 番茶に馴染む 恍惚の
八十充ちる朝 善くぞ今日まで
兵庫県 釈貞 芳

☆なまんだぶ 唱え続ける楽しみは
傍楽(働く)人に 出会う喜び
東北に住む婆より

☆東北の 婆に夕方 響きくる
三重のお寺に 児等の撞く鐘

善正寺だよりで皆さんが撞く鐘のことを読んでいます。ありがたいご縁を戴いている皆さんに、一度お礼が言いたかったの。夕方になると私の心に聞こえます。南無阿彌陀仏とお念仏がこぼれます。ありがとう、ありがとう!

☆ホットニュース☆

☆11月6日(土)夜7時半より

世話方会議「来年度の行事予定」について。世話方様よろしくお願ひします。

☆11月23日(火・祝)午前8時より

「秋勸進」年行事さんよろしく!
お留守の方は担当行事さんにあらかじめご連絡下さい。

☆善正寺のホームページ。「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。最近では長男も若い感覚でブログ投稿。開設2年3か月で3万1千回以上アクセス!

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇11月6日午後4時より。お友達誘って来てね。鐘撞きは毎日。ガム・飴付き

♪三重組コーラス♪

☆10月30日(土)夜7時半・善正寺会場の最後の練習。8年間ありがとう「感謝の集い」。来年度から三重組の新体制スタッフにより三重組主導で運営。
※11/3午後 光了寺様報恩講
※11/15夜 西勝寺様報恩講
※11/22(月)京都西本願寺「御堂演奏会」連続8回目の参加6千円。

☆11/30(火)12時半より寿美家で三千元。「三重組コーラス打ち上げ&慰労会」。申し込みは所属寺へ。

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第二〇三号をお届けします。◇今月号には、偶然にも「平成の妙好人」とお慕いするお二人をお伝えすることになった。一人は斉藤さん、もう一人は「東北に住むSさん」◇一面の浦島太郎の絵も丁寧で美しいですが、「夕方になると私のところに響きます。いつのまにかお念仏がこぼれるのです。ご催促を賜っていたのですね」と書き送って下さる尊い菩薩行に感動ひとしおです。如来大悲の恩徳を謝しつつ合掌。

今年で8回目の出演となる御堂演奏会をもつて、三重组
コーラスの活動拠点が善正寺から離れ、智積の西勝寺
様に一本化されます。新年度から三重组より活動費を
得て、新指導者の元でリニューアルします。思えば八年前、
門徒推進員さんの「三重组にもコーラスを」という熱意に
共鳴した人達が集い結成、用意した式章は70本、連続
八回の御堂演奏会、例年の名古屋別院音楽祭、毎
月の陽光苑慰問、仏婦総会での披露、三重组ニテ寺報
恩講出演等、その活動は多岐に渡っています。
コーラスの経験のない私と、仏教讃歌には無縁だった人々の
集まり、教科書もない、レールも敷かれていない、ナイナイ
尽くしの中でのスタート。私にとっては無我夢中の八年でした。
心でつながることしかできない自由参加の難しさや、お寺の垣
根を越えることの難しさをいひひし感じた歲月でした。
しかし困難が大きければ大きい程、乗り越えた時の喜びも
大きい。4月の東海お待ち受け、6月の三重组お待
ち受け、7月の名古屋別院と、今年の三大行事を6
名以上の参加を得て、大成功のうちを終えました。中でも
三重组お待ち受けは、僧侶門徒、コーラスがひとつに
なる大きな感動に充たされました。三重组コーラスを
いう井戸もせつかく掘ったならば水を汲み続けなけれ
ば枯れてしまいます。今後とも変わらぬご協力をお願
いします。コーラスで出会えた皆様との
感動の共有が私の一生忘れることのできない宝物！
本当にありがとうございました。
善正寺方守 押

平成二十二年十一月

善正寺

方守 押